

2 個と個をつなぐ「絆づくり」

子ども相互や教職員との心の結びつきに着目し、共同の活動によって生まれる信頼感を大切に、共同の活動を通して社会性を身につける「絆づくり」を進めましょう。

(1) 心の結びつきの重視

自尊感情や自立心を育む活動

子どもが互いに協力して目的を達成する中で、一人一人が自己を生かすことができるよう、子ども同士のふれあいの場を創り出すことが大切です。

- ・ 子どもの気持ちを共感的に理解しようとする教職員の姿勢
- ・ 子ども自身が、必要とされている存在であることが実感できる活動
- ・ 子どもがストレスをためない人間関係づくり

認め合い高め合う集団づくり

教育活動全体を通じて、一人一人のよさやちがいを認め合い、互いに高め合おうとする集団が形成されるように取り組むことが大切です。

- ・ いじめや暴力行為を許さない（人権意識が高い）教職員の姿勢
- ・ 子ども同士が対等である集団づくり
- ・ 自分の意見が言え、仲間の意見を尊重できる学級づくり
- ・ 学び合い、高め合う学習集団づくり

〔利用できる開発的カウンセリング〕

構成的グループ・エンカウンター

グループ体験でのふれあいを通して、自分と他者への温かさをはぐくみ、自己理解や他者理解を促進し、人間関係を豊かにします。

ソーシャル・スキル・トレーニング

人間関係を円滑にするための技術や要領を獲得し、これを使って個性を発揮し、人とかかわることの楽しさを味わい、学級への所属感や自己有用感を高めます。

ピア・サポート・プログラム

ゲームやロールプレイング等を活用した体験的なトレーニングを通して、子どもたちの基礎的な社会スキルを段階的に育て、子ども同士が互いに支え合う関係をつくり出します。

Q - U（学級適応アセスメント）調査

学級に居場所があるか、いじめ等の侵害行為を受けてないかを調べ、不登校等を防ぐ対策を探るための調査です。

アサーション・トレーニング

実際の事例を使って、相手も自分も大事にしながら、率直に自分を表現する方法を体験的に身につけるトレーニング方法です。



(2) 社会性を育てる活動

生き方を深める指導の推進

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間で、自らの生活や生き方について考えさせる機会を十分にとり、人としての生き方を考えさせる指導が大切です。

- ・ 規範意識を育てる。
- ・ さまざまな人々の生き方にふれさせる。
- ・ 自己の判断力や価値観を養う。
- ・ 勤労観や職業観を育てる。
- ・ 集団や社会の中で自己を生かす能力を養う。
- ・ 自己の夢や目標をもてるようにする。

問題解決能力の育成

自分自身の問題や学校生活における、さまざまな問題の解決に取り組む機会を設定し、実践的な態度を養うことが大切です。

- ・ 子どもの努力やよさを認める。
- ・ 子どもの能力や状況に応じた指導・助言を行う。

〔利用できる活動〕

体験活動

自主性・協調性・社会性を育み、集団生活への適応を促すことができます。

- ・ ボランティア活動
- ・ 自然体験
- ・ 勤労生産体験
- ・ 職業体験
- ・ 芸術（文化）体験
- ・ 交流体験

問題解決的な学習活動

解決のために創意工夫をさせ、それを表現させることによって、個人が全体に認められる機会となります。

異年齢集団活動

多様な人間関係が生まれ、さまざまな体験を得ることができます。

- ・ 児童会、生徒会活動
- ・ クラブ活動
- ・ 体育的行事
- ・ 学芸的行事